

『一人の笑顔のために』

玉名荒尾中体連駅伝大会 大健闘! 女子5位、男子10位

女子1区 区間賞 (3年 山下紗瑛さん)

女子2区 区間賞 (2年 鍋島彩里さん)

10月21日(水)、本年度唯一の中体連大会(駅伝大会)が開催されました。生徒たちの頑張りですべての順位を上げ、標記の結果を得ることができました。

写真は本年度の駅伝メンバーです。選手たちは、これまで一緒に練習してきた、当日走れなかったメンバーの思いも胸に一生懸命走ってくれました。女子1区の山下紗瑛さんは、平成18年度から破られることがなかった区間記録を更新し、区間新記録の走りをみせてくれました。

また、男子6区アンカーの鍋島颯太くんは、ゴール手前の直線に入るところで前のランナーを一人抜き、11位から10位に順位を上げてくれました。生徒たちの必死な走りを見て、『最後まであきらめない』ことの大切さを感じました。



最後まであきらめない姿に感動!

2014年に偶然テレビで観戦した2つの高校生の試合が忘れられません。

「最後まであきらめない」ことの大切さを教えてくださいました。

2014年 1/12 春高バレー 女子決勝
九州文化学園 VS 東九州龍谷
(長崎) (大分)

1セット目	22	—	25
2セット目	23	—	25
3セット目	25	—	18
4セット目	25	—	21
最終セット	25	—	23

夏のインターハイでも優勝した大分の東九州龍谷高校が1セット、2セットと連取し、春高優勝に王手をかけた。しかし、長崎の九州文化学園の選手たちはあきらめず、ボールを追い、3セット、4セットを取り返し、最終セットにもつれこんだ。15点制の最終セット、12対14と東九州龍谷がマッチポイントを迎えた。しかし東九州龍谷はあと1点が取れず、14対14のデュースとなった。デュースとなった場合、試合は2点差がつくまで終わらない。その後、お互いに必死のプレーを続け、最終的には25対23で長崎の九州文化学園が大逆転勝利を収めた。

2014年 1/13 全国高校サッカー選手権決勝

富山第一(富山)	vs	星稜(石川)
0	—	1(前半34分)
(後半42分、48分)2	—	1(後半25分)
0	—	0
(延長後半9分)1	—	0

本田圭佑選手の母校である、石川星稜が後半終了間際まで2対0でリードしていた。誰もが星稜の勝利を確信しはじめた後半42分に富山第一が1点を取り、さらにロスタイムに1点を追加し同点となった。そして延長戦、富山第一が1点を追加し大逆転勝利を収めた。

この2つの試合をテレビで観て、最後まであきらめず必死に闘う高校生たちの姿を見て感動しました。そんな一生懸命な姿は本当に「カッコイイ」と思いましたし、勝つためには何が大切なのかを教えられた気がしました。また、春高バレーで優勝した九州文化学園の監督のインタビューが印象に残りました。

アナウンサー:「あの3セット目以降のねばりはどこからくるのでしょうか。」

監督:「よく根性とか言われますがそうではありません。素晴らしい心を持った生徒たちが毎日一生懸命練習に取り組んだ結果です。」

やはり「心」が大切なのですね。